

インタビュー

# 認知症サポーターについて

認知症について正しく理解し認知症の人やその家族を見守り支援する「認知症サポーター」。

認知症サポーターの証であるオレンジリングをまちなかで見かけることも増えてきましたが、高齢化率の高い地域では特に認知症の支援が求められることが想定されます。

今回は、飯高町森地区で開かれた認知症サポーター養成講座でお話を伺いました。



認知症地域支援推進員  
西嶋 智加 保健師

認知症サポーターの必要性を  
教えてください。

65歳以上の7人に1人が認知症と言われているなか、この地域で暮らしているために、認知症について理解し寄り添っていくことが必要です。また、自分もいつか認知症になるのではないかと不安を感じている人も増えていきます。認知症サポーターは、なにか特別なことをする人ではありません。

認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る応援者として、学んだ知識を伝えたり、気持ちを理解しようとする取り組みが認知症サポーターの活動です。あくまでも自分のできる範囲の活動を継続して行うことが求められます。

今後の取り組みについて  
教えてください。

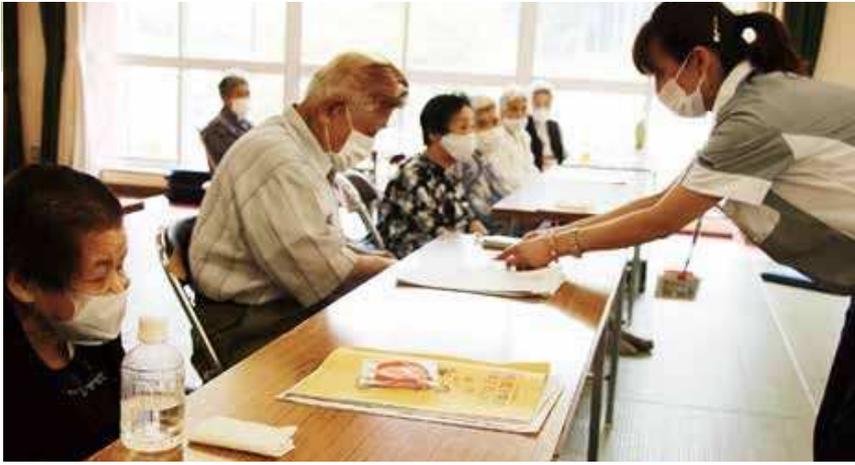
実際にご家族や近所の方などから、認知症に関するご相談は多く寄せられています。認知症になっても安心して地域で生活していけるよう、相談をしやすい地域づくりを目指していきます。

そのため、認知症サポーター養成講座をもっと幅広い年代の方にも受講していただき、支援世代の方々が地域を見守ることができるように取り組んでいきたいと思っています。

### 参加者の声

● 自分もいつかは認知症になるのではないかと思っています。今日の話は、とてもわかりやすくよかったです。

● 私の周りも80歳以上の方がほとんどで、認知症は他人事とは思えません。一人暮らしの方も多いため、なるべく外にでかけておしゃべりしたり、近所の方と交流したりしたいと思っています。自分の家族が認知症の場合、つい怒ってしまいがちですが、年を重ねたら誰にでも起こり得ることなので、できるだけ理解したいです。



【問】 高齢者支援課 ☎53-4099